

# 景観マネジメント部門



## アメリカのマスターガーデナーとその育成プログラム参加者の意識と活動

Study on the Attitudes and Activities of Master Gardeners and Master Gardeners-in-Training in the United States

### 要約

当校のボランティア育成コース「まちづくりガーデナーコース」のモデルとなったものが、アメリカで30年以上の歴史をもつ「Master Gardener Program」である。本研究では、わが国におけるまちづくりボランティアの育成手法の参考とするため、現地での調査と受講者・修了者へのアンケートにより彼らの意識と活動の内容を探った。

[http://www.awaji.ac.jp/new\\_www1/lecture/hirata.htm](http://www.awaji.ac.jp/new_www1/lecture/hirata.htm)

### 研究者

平田富士男  
HIRATA Fujio

### ■「マスターガーデナー」とは？

当校では、花と緑のまちづくりボランティアリーダーとして「まちづくりガーデナー」の育成に開校以来8年にわたって取り組んでいるが、このシステムのモデルとなったものが、1972年以来全米の各州で取り組まれている「Master Gardener Program」である。このプログラムは、ワシントン州立大学が始めたものであるが、今では全州の州立大学に広がっており、ワシントン州だけでも3,000人以上のマスターガーデナーが活動しているとされている。それにしても、このようなボランティア育成プログラムが30年以上の長きにわたって継続され、そしてその修了者が活発な活動を展開し続ける背景には何があるのだろうか。そのことを探り、わが国におけるボランティア育成の参考とするため、このプログラム発祥の地であるシアトル市のワシントン州立大学のプログラムの現地調査と受講者・修了者へのアンケートを行った。(2005.1.~2.)

### ■結果

#### ①受講者について

講座の受講者は、女性が8割を占め、そのなかでも50歳代が最も多い。

また、受講の動機としては、「園芸技術を習得したい」「称号を得たい」「まちづくりに貢献したい」などが上位を占めた。

そのため、習得したい項目も「植物に関する知

識」から「ガーデンデザイン」「環境教育」「まちづくり活動」まで多岐にわたっていた。

修了後参加したい活動としては、「自然環境保全活動」「樹木医・植物医としての活動」「まちづくり活動」などが上位を占めた。

#### ②マスターガーデナーについて

修了してマスターガーデナーとして活躍している人々も属性は、概ね受講者と同様であった。

また、実際の活動時間としては、「緑化相談活動」が最も多く、平均して年間65時間程度のボランティア活動に参加していることがわかった。

また、このプログラム運営事務局の活動に高い評価があり、修了以降も引き続きその活動のフォロー、サポートをしていくことの重要性が明らかになった。

#### —成果発表場所—

- ・アメリカのマスターガーデナーとその育成プログラム参加者の意識と活動，都市計画学術論文集40，799-804。(2005)



写真-1 受講のようす（ワシントン大学都市園芸センター講義室にて）

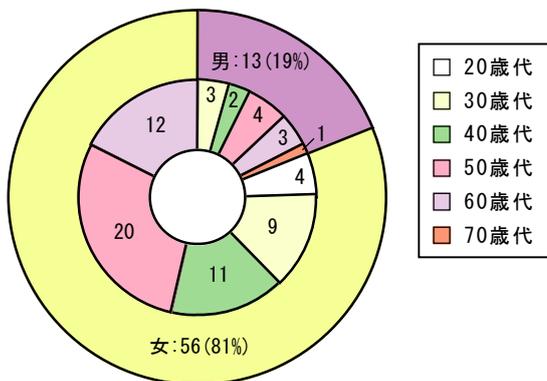


図-1 受講者の属性

表-1 受講の動機

動機の内容	平均点	標準偏差
園芸技術を習得したい	4.85	0.43
まちづくりに貢献したい	4.21	1.12
今取り組んでいる活動の課題を解決したい	2.32	1.46
マスターガーデナーの称号を得たい	4.59	0.90
同じ園芸趣味をもつ友人を得たい	4.14	1.10

表-2 ボランティア活動の内容、時間 (h)

緑化相談	22.16
デモガーデンの維持管理	9.45
子ども達への講話	3.13
成人への講義	4.17
その他	26.34
合計	65.24